

刊行に寄せて



文部科学大臣

盛山正仁

令和6年能登半島地震によりお亡くなりになった方々とその御遺族に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

文部科学省が担当する教育、科学技術・学術、スポーツ、文化芸術という行政分野は、人々の人生を幸福で豊かなものにし、我が国の成長の源泉ともなる、極めて重要な行政分野です。

令和5年度文部科学白書では、特集として二つのテーマを取り上げています。

特集1では、明治以来初めての中央省庁の地方移転となる、文化庁の京都移転について取り上げました。①文化庁京都移転の経緯、②京都移転後の取組、③新たな文化振興の展開として、令和5年3月に移転するまでの、移転の規模や移転先の検討過程、移転後の、地方公共団体等との連携による取組や、食文化や文化観光の推進による地方創生などの新たな取組について紹介しています。

特集2では、令和5年5月に取りまとめた「せかい^{かける}×まなびのプラン」について取り上げました。G7教育大臣会合における「富山・金沢宣言」等を踏まえ、①日本からの留学・人材交流、②優秀な留学生や人材の受入れ・定着、③教育の国際化を一体的に推進する本プランに基づき、一貫したグローバル人材育成のため、文部科学省が推進している施策について紹介しています。

追部では、令和6年能登半島地震への文部科学省の対応と題し、被災地にあっても、学びの質や場を確保し、学びを取り巻く環境を十分に整えていくための取組について紹介しています。また、スポーツを行う環境の整備、学生のメンタルケア、文化財被害への対応、研究機関への支援等の取組も紹介しています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、ポストコロナ社会を迎えています。文部科学省は、この数年間の経験を糧にして、文部科学行政を取り巻く課題を解決するための現場の御意見を丁寧に向いながら、国民の皆様一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続可能な発展の実現に向け真摯に取り組んでまいります。

本白書が一人でも多くの方の目に届き、幅広く活用され、皆様の御理解を深めていただく一助となれば幸いです。